

CSJ Annual Report  
2019

日本化学会アニュアルレポート

# 目次

Top Message と活動方針	01
春季年会・CSJ 化学フェスタ	02
講演会・講習会・実験教室の開催	04
化学を広める・未来の化学者を育てる	06
キャリア支援	08
グローバル化	10
論文誌・出版	11
社会に向けた様々な取り組み	12
企業・団体からのご支援	13
化学会概要	14
会計報告	16
ノーベル賞受賞会員	

## 日本化学会とは

日本化学会は、化学を中心とする多様な領域の研究者・技術者・教育者・学生が研究成果を発表し、交流する日本を代表する化学者コミュニティです。その目的は、産業の振興・知識の普及、並びにそれを担う人材の育成を図り、もって社会の発展に寄与することにあります。

# Top Message と活動方針

——世界の化学会を目指して



## 日本化学会はグローバルな 持続可能な活動を推進します

日本化学会は140年以上の歴史を持ち、かつ、70年前に工業化学会と合併して以来、産官学の化学に携わる者が協力して化学の振興と若手の育成を担っています。我が国の学会の中では、基礎科学から応用科学そして産業応用までを学会活動の範疇としていることは誇るべき特徴です。

❶「科学には国境はない、科学者には祖国がある」。ルイパスツールの言葉です。研究者の国際交流は日常的になりましたが、海外の研究者がこぞって出席するほどには日本化学会の年会は普及していません。年会の英語化は定着しつつあり、国際的な交流の場としての機能をさらに強化します。我が国は人口減少の時代を迎え、これまでとは違った意味でもグローバル化は欠かせません。国際交流戦略を強化して、海外から招くだけでなく積極的に海外を巻き込み、世界の中で「見える」日本の化学を目指します。そして、世界的に解決すべき問題に対して、国内外の知恵を集めて課題の抽出と解決に向けて協力して参ります。

❷国内外の異分野の学会との交流の場を提供して、学際的協力の要として機能する仕組みを作ります。学問の進化には学際的協力が必要です。材料創成の中核である「化学」がこの役割を果たす理由があります。

❸化学研究には産業界の知恵が不可欠です。産学の真を尽くした議論から、イノベーションに貢献する活動を継続します。また、産業界と学生をつなぐ活動は、支部活動としても定着しつつあり、若手の育成のためにも、一層の効果が望めます。

❹日本化学会は、「日本化学会英文2誌」と「化学と工業」の改革に取り組んできました。化学情報を提供する学会誌として、「Bulletin of the Chemical Society of Japan」はインパクトファクターが4を超える一流誌

になりました。国内の学会誌としては画期的なことです。学会誌改革に取り組んでこられたご担当会員の皆さま、質の良い論文を投稿されてきた皆さまの努力の賜物です。これからも世界に誇れる論文誌としての評判を堅持して行くことに期待します。今年度から学会誌は紙媒体からWeb媒体へ移行します。時代に即した会誌のあり方についての検討をさらに進めていきます。

日本化学会は会員の皆さまに寄り添い、活動を支えて参ります。引き続き積極的なご支援をお願い申し上げます。

公益社団法人 日本化学会  
会長 川合眞紀

### 日本化学会2019年度基本活動方針(一部抜粋)

#### 1 グローバリゼーション

- ・国際周期表年(IYPT2019)の企画と実行
- ・国際交流委員会を軸とした国際交流戦略の推進
- ・年会の英語化と国際化の推進

#### 2 産学連携活動

- ・産業界のニーズを捉えたイベントの見直し、企画展開

#### 3 ジャーナル改革とビジビリティ向上

- ・ビジビリティ向上と収益の両立に向けた戦略の実行
- ・国際情報発信強化のための新たな施策の推進

#### 4 人材育成と教育普及活動

- ・次世代化学人材の育成に向けた活動の推進
- ・中高生会員からシニアまでのシームレスな活動の推進

#### 5 150周年(2028年)に向けた改革

- ・化学会館の将来計画の策定と実行
- ・他学会/協会との交流深化と拡大
- ・春季年会のあるべき姿の検討と実行

#### 6. 化学会の組織基盤の強化

- ・会員の維持・増強に向け組織的な取り組みの強化
- ・財務体質の強化



## 春季年会・CSJ化学フェスタ

春と秋に二大イベントを開催しています。日本はもちろんのこと、世界各地から化学という共通点を持った様々な分野の研究者が一堂に会す化学系学会最大級のイベントです。インターネットや文献などの情報収集ではできない「ディスカッション」「face to faceの情報交換」「産学官の垣根を超えた人脈作りの場」として活用してもらうことを目的として開催しています。

### 春季年会

国内外から7,000名を超える参加者と情報がダイナミックに交わる国内最大級の学術イベントとして毎年3月中旬～下旬に4日間連続で開催されます。講演件数は5,000件を超え、最先端の化学技術に関する情報を密に、深く、広く、得ることができます。同時に国際化に向けて年会の英語化も推進しており、2018年は全体で33.4%が英語の発表、口頭B講演に関しては72.6%が英語で発表されています。また、市民が参加できる講演も複数開催される等、地域社会にも広く門戸が開かれていることも特徴です。来年以降も参加者の声を反映させ、より魅力的な場をつくっていきたいと考えています。

#### 2018年実績

##### ● 第98春季年会

参加者数：7,438名 講演件数：5,307件

会場：日本大学理工学部船橋キャンパス（千葉県）



[上] ポスター・展示会場 [下] ポスター発表

## CSJ化学フェスタ

2011年の世界化学年に秋季事業の一環として「産学官の交流深耕」と「化学の社会への発信」を目的にスタートしました。毎年10月中旬～下旬に3日間連続で開催され約3,000名が参加します。参加者は産学官それぞれの立場から「エネルギー・資源・環境」、「新素材」、「バイオ」分野の最新の化学と技術を紹介する200件を超えるテーマ企画講演および約1,000件の学生ポスター発表を聴講できます。2日目の夜には、500名（学生400名）が参加する国内最大級の懇親会が開催され、業種や年齢の違う多くの仲間を作れる場として有効に活用されています。今後も、産学官がさらに交流を深めていけるよう様々な挑戦をしていく予定です。

### 2018年実績

#### ● 第8回CSJ化学フェスタ

参加者数：2,951名

講演件数：1,265件

会場：タワーホール船堀（東京都）



[上] 日本一早いノーベル賞解説講演  
[中] テーマ企画講演  
[下] ディスカッション

## 市民に開かれた講座

春季年会、CSJ化学フェスタでは会員向けだけでなく、市民の皆さまに向けた講座を開催しています。普段、化学に関わりのない一般市民の方々に化学にもっと親しみを持ってもらおう、化学の有益性を知ってもらおうということが目的です。子供向けの講座は特に人気で毎回定員を超える応募を頂戴しています。今後も化学の啓発活動を継続して実施していきます。



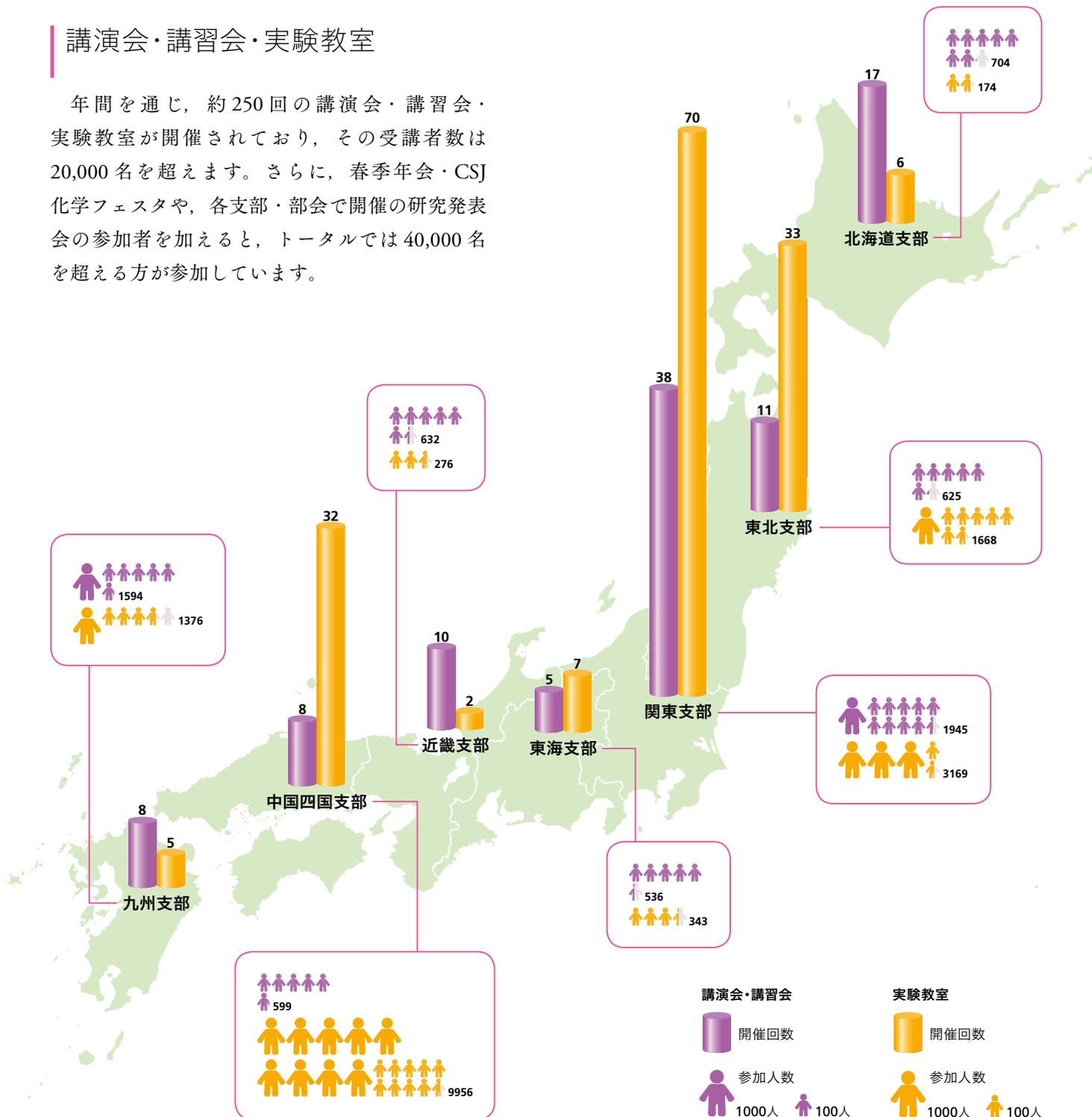
実験教室（第98春季年会）

# 講演会・講習会・実験教室の開催

変化の激しい現代社会では、最新の専門知識が求められる一方、その高度な専門知識を活かすだけの基礎知識も求められるという二面性を持っています。前述の春季年会、CSJ化学フェスタ以外にも、研究者、教育者にとって有益な情報をもたらす機会を全国規模で多く提供しています。

## 講演会・講習会・実験教室

年間を通じ、約250回の講演会・講習会・実験教室が開催されており、その受講者数は20,000名を超えます。さらに、春季年会・CSJ化学フェスタや、各支部・部会で開催の研究発表会の参加者を加えると、トータルでは40,000名を超える方が参加しています。



## R&D 懇話会

先端化学技術の話題について、2名の講師に講演いただく小規模セミナーです。講演会および意見交換会で、講師・参加者および参加者相互の交流深耕を図ることも大切な目的の一つです。近年は講演会だけでなく、研究所の見学会も企画され、業務知識として必要な方だけでなく、最新の化学技術に興味がある方など多くの方が参加しています。

### 2018年実績

開催回数：6回(内1回 見学会)  
参加者数：127名(見学会 28名)  
会場：化学会館(東京都) 他



株式会社島津製作所見学会

## 化学技術基礎講座

当該分野の知識習得が必要な企業の技術系新入社員、中堅技術者などを対象とした2日間の短期集中講座です。いずれの講座も分かりやすく丁寧な講義で受講者に好評です。さらにランチミーティングや懇親会を活用することで、講師・受講者間の交流が生まれ、人的ネットワークの形成に役立っていることもこの講座の大きな特徴です。

### 2018年実績

開催回数：5回  
参加者数：143名  
会場：化学会館(東京都)



有機合成化学の基礎

## 化学安全スクーリング

化学実験をおこなう大学、研究所等の安全管理担当者、指導者や化学企業の研究所、プラント、生産現場で安全管理に関わるすべての方を対象とした化学実験に関わる安全と衛生に関して総合的に学ぶ毎年恒例の講習会です。ここで得られる情報は、参加者自身の安全管理はもちろんのこと、職場での安全教育、安全管理に活用されています。

### 2018年実績

開催回数：1回  
参加者数：41名  
会場：化学会館(東京都)



化学実験室における安全管理指導者の養成

# 化学を広める・ 未来の化学者を育てる

お子さんから大人まで多くの方に  
化学を身近に感じてもらいたい、魅力を知ってもらいたい、という想いのもと、  
様々な取り組みを実施しています。

## 実験教室など

未来を担う子供たちに化学の面白さを知ってもらうため、日本各地で実験教室や講演会などを実施しています。学校ではできないような体験ができると大変好評です。

### 2018年実績

開催件数：155件

参加者数：約17,000名



中学生のための化学実験講座（旭川工業高等専門学校）

## 化学の日（10月23日）

10月23日は化学の日です。この日はアボガドロ定数（1molの物質中に存在する粒子の数 =  $6.02 \times 10^{23}$ ）に由来します。2013年10月、日本化学会、化学工学会、新化学技術推進協会、日本化学工業協会の4団体は、化学および化学産業の魅力、社会への貢献などを広く知っていただきたいという想いのもと、10月23日を「化学の日」その日を含む月曜日から日曜日までの1週間を「化学週間」と制定しました。この時期には日本各地で化学の日になんだイベントを開催しています。化学の理解拡大が進み、化学の道へ進む子供たちが増えることを望んでいます。



[上・下]「夢・化学-21 わくわく化学ひろば」（奈良女子大学）

## 化学だいすきクラブ

小・中学生を対象に、情報や体験機会の提供を通じて子供たちが化学を好きになり、将来化学の分野で活躍する人材に育ててほしいという想いから2004年に発足しました。本事業は、多くの方のご支援のもと、寄付金で運営されています。

### 2018年実績

ニューズレター発行：3回  
体験型イベント：9件  
参加人数：約150名  
メンバー：2,196名



理化学研究所見学ツアー

## 化学グランプリ・ 国際化学オリンピック

1998年、国際的にも通用する若い化学者を育てることを目的として「化学グランプリ」が開催されました。現在では約4,000名の参加者が化学の力を競い合っています。また、本大会で選抜された高校生は毎年7月に10日間の予定で開催される国際化学オリンピックに参加することができます。2021年は日本（大阪）で開催される予定です。

### 2018年実績

#### ●化学グランプリ

[一次選考]参加者数：3,963名 会場数：全国66カ所

[二次選考]参加者数：80名 会場：筑波大学

#### ●第50回国際化学オリンピック スロバキア・チェコ大会

代表生徒4名派遣（金メダル1、銀メダル2、銅メダル1）



[上] 国際化学オリンピック表彰式

[右] 化学グランプリ二次選考



## 中高生会員

2016年、化学に関心が高い中高生の皆さんのために「中高生会員制度」をスタートさせました。年会へ無料参加できるほか、メルマガで「化学と工業」「化学と教育」などのピックアップ記事や化学イベント情報も豊富に提供しています。夏には「JAIMA サマーサイエンススクール」へも参加しました。



JAIMA サマーサイエンススクール

# キャリア支援

「学生」、「企業」、「大学」、それぞれが  
face to faceで正しい情報を交換することが重要であるという考えのもと、  
キャリア支援事業を行っています。

## 企業合同説明会・ 研究最前線講演会

就職活動の効率化・短期化を目的に「化学」に  
特化し毎年3月に開催するもので、法人会員の  
企業、化学系等専攻の学部生・大学院生が多数参  
加します。企業、学生のマッチングの場として、  
高い評価を得ています。

### 2018年実績

- **化学系学生のための企業合同説明会**  
企業50社、学生約3,000名参加  
会場：タワーホール船堀（東京都）
- **研究最前線講演会**  
～キャリアデザインのための企業・研究との出会い～  
企業21社、学生約120名参加  
会場：理化学研究所 計算科学研究機構、神戸大学先端  
融合研究環統合研究拠点（兵庫県）



企業合同説明会

## 就職交流会

大学の就職担当教員と企業人事担当者の情報交  
換を目的に毎年1月に開催されています。参加  
者からは『日本各地の大学と短時間に数多く接触  
できるので有意義だ』『ここでの名刺交換がきっ  
かけで学内セミナーが開催できてよかった』と  
いった感想を頂戴しています。

### 2018年実績

- **第22回就職交流会**  
120名参加（41大学、35社）  
会場：化学会館（東京都）



[上・下] 就職交流会



## 工場見学ツアー

2017年から学生会員を対象に企業現場見学会を開催しています。工場や研究所の見学やそこで働く方との交流を通じ、企業で働くイメージを持ってもらうことを目的としています。参加した学生からは『大学での研究と会社での研究を結び付けて考えることができた』『後輩にも是非勧めたい』というような感想を頂戴しています。

### 2018年実績

- 日本ゼオン株式会社総合開発センター…12名
- ライオン株式会社…25名
- 花王株式会社和歌山工場…19名
- 株式会社ダイセルイノベーションパーク、網干工場…5名



花王株式会社和歌山工場見学

## キャリア相談会

企業で活躍する先輩方と学生とがざっくばらんに質疑応答をするセミナーです。春季年会やCSJ化学フェスタ会期中などに開催されています。学生にとって自身のキャリア形成を考える良い機会となっています。また、企業側としても学生の不安や疑問を聞けるため、自社アピールのポイントを整理できると好評です。

### 2018年実績

- 春季年会「あなたの将来を考えるランチオン相談会～企業が求める化学者像～」  
参加者数：企業側10名、学生38名
- CSJ化学フェスタ「ここでしか聞けない女性の働き方」  
参加者数：産官学側6名、学生35名
- 化学系女子学生座談会2020～女性の働き方を知ろう  
参加者数：企業側7社、学生62名 など



[上] 化学系女子学生座談会

[下] CSJ化学フェスタ「ここでしか聞けない女性の働き方」

# グローバル化

化学の世界で国際的に活躍できる人材育成、研究推進を強力にサポートしています。  
世界各国の化学会や関連団体と連携し、日本の化学を世界に発信する場を設けるとともに、  
多様化する国際社会のニーズを収集する場として、化学の発展に寄与する国際交流を推進しています。

## 国際的連携・協調、異文化交流

化学の国連ともいえるべき IUPAC<sup>※1</sup> や FACS<sup>※2</sup> との国際協調、また ACS<sup>※3</sup> と密接に連携し顕彰する Nakanishi Prize、RSC<sup>※4</sup> との二国間協定に基づく PCCP Prize 受賞選考などを行っています。また様々な国際会議にも出席し化学会の国際競争力の向上と認知度拡大に貢献しています。さらに、国連総会とユネスコは、2019 年を国際周期表年と制定しており、本会は日本で開催する閉会式等の記念事業を実施していきます。

### 2018年実績

- アジア国際シンポジウム（第98春季年会）、日英シンポジウム（ロンドン）開催
- 国際周期表年 2019 ウェブサイト <https://iypt.jp> など



IUPAC Workshop (奈良県)

※1 国際純正・応用化学連合 ※2 アジア化学会連合  
※3 アメリカ化学会 ※4 英国王立化学会

## Pacifichem (環太平洋国際化学会議) の開催

5年に1度、世界化学界の一大イベントである Pacifichem をハワイ・ホノルルで開催しています。次回 2020 年の第 8 回目は日本が-host 国となります。日米加の設立 3 学会に加え、中韓豪および NZ の 7 化学会が共同主催し、前回 2015 年には、世界 71 カ国、15,700 余名の参加者を迎え 18,000 件を超える講演が行われました。次回 2020 年はテーマを "Pacifichem 2020: A Creative Vision for the Future" とし、12 月 15 日から 6 日間同ホノルルで開催されます。

### 開催までの流れ

- 2018年1-4月：第1次シンポジウム募集(応募数 369件(採択数 286件))
- 2019年1-4月 第2次シンポジウム募集 12月：採択シンポジウムのプログラム発表
- 2020年1-3月：講演申し込み 6月-10月：参加登録



第7回 Pacifichem (2015年12月 ホノルル・ハワイ)

# 論文誌・出版

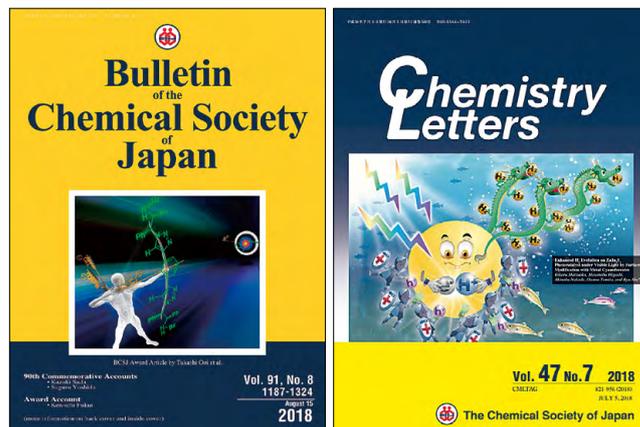
1891年の「化学訳語集」刊行以降、様々な出版事業を行っています。  
機関誌・英文論文誌・書籍を発行し、社会の変化を捉えた誌面の充実、  
最新の研究や生活の中の化学を社会に届けるための情報発信に取り組んでいます。

## 英文論文誌を世界へ発信

*Bulletin of the Chemical Society of Japan*, *Chemistry Letters* は科研費の支援を得て2013年から5年計画で編集体制を強化し、Webサーバを世界のトップジャーナルと同等に変更し、サイトと誌面の刷新を行ってきました。2018年以降も新たに科研費「国際情報発信力強化」を得て、印刷体の廃止、完全電子ジャーナル化による情報の一元化を実施し、バラエティ豊かなサービスを提供する一流の国際誌になるべく取り組んでいます。

### 2018年実績

- BCSJ IF:4.350, 掲載論文数203  
Web特集テーマ:Materials Innovation
  - CL IF:1.436, 掲載論文数425  
Web特集テーマ:Catalytic C-H Activation, Perovskite Solar Cells, Coordination Asymmetry
- ※ IF: Impact Factor. 2019年3月30日Web of Scienceより算出



## 機関誌

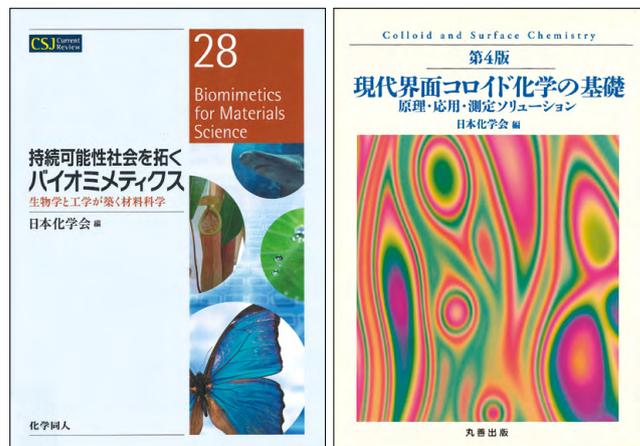
会員に向け、化学・化学工業分野の最新の動きを紹介する「化学と工業」誌および教育現場に役立つ話題の研究・技術をわかりやすく解説する「化学と教育」誌を毎月発行しています。

## 書籍

専門書から、「化学便覧」,「実験化学講座」等のハンドブック・実験書,化学をわかりやすく解説した一般書まで刊行しています。

### 2018年実績

- 「CSJカレントレビュー 27~31」
- 「化学の要点シリーズ 25~28」
- 「現代界面コロイド化学の基礎 第4版」



# 社会に向けた様々な取り組み

時代の変化と共に学会に求められるものも変わります。  
本会においても、その変化に対応するべく様々な取り組みを行っています。

## SDGs (持続可能な開発目標) の推進

春季年会・CSJ 化学フェスタでは環境をテーマにした企画枠を設け、地球環境を守るための最新の研究を紹介しています。また、学会誌に化学の観点からの提言を掲載したり、人類が直面する課題に化学者が討議するCS3会議を通じ、国際的な協力活動に参加しています。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



## 男女共同参画の推進

2002年より「男女共同参画推進委員会」を組織し、化学者・化学技術者が、互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会を実現させるための活動を行っています。

### 2018年実績

- 男女共同参画シンポジウム (第98春季年会) 開催
- 女子中高生夏の学校2018への参加 など



女子中高生夏の学校

## 化学遺産関係

委員会への寄附を元に著名な化学者との対話冊子の作成や化学関連の文化遺産を調査、認定、発表をしています。2018年は4件が化学遺産に新規認定されました。

### 2018年度認定化学遺産

- 第047号 学習院大学南一号館ドラフトチャンバー
- 第048号 我が国初のNMR分光器用電磁石
- 第049号 島津製作所 創業記念資料館および所蔵理化学関係機器・資料等
- 第050号 銅アンモニウムレーヨン製造装置「ハンク式紡糸機」および関連資料



[上] ハンク式紡糸機 (旭化成株式会社)  
[右] ガスクロマトグラフ GC-1A (株式会社島津製作所)



# 企業・団体からのご支援

## 化学に関連する

多くの企業、団体のご支援をいただいております。

### 100口以上

花王(株)  
東レ(株)  
富士フイルム(株)  
三菱ケミカル(株)

### 50～99口

旭化成(株)  
AGC(株)  
(株)クラレ  
昭和電工(株)  
住友化学(株)  
(株)ダイセル  
DIC(株)  
東ソー(株)  
丸善出版  
三井化学(株)

### 10～49口

**化学**  
(株)ADEKA  
荒川化学工業(株)  
字部興産(株)  
(株)大阪ソーダ  
(株)カネカ  
関西ペイント(株)  
クミアイ化学工業(株)  
(株)クレハ  
興和(株)  
三洋化成工業(株)

JSR(株)  
JNC(株)  
塩野香料(株)  
信越化学工業(株)  
住友精化(株)  
住友ベークライト(株)  
積水化学工業(株)  
セントラル硝子(株)  
高砂香料工業(株)  
デンカ(株)  
東亜合成(株)  
東洋インキSCホールディングス(株)  
(株)トクヤマ  
日亜化学工業(株)  
日油(株)  
日産化学(株)  
日鉄ケミカル&マテリアル(株)  
日本化学工業(株)  
日本化薬(株)  
(株)日本触媒  
日本ゼオン(株)  
日本曹達(株)  
長谷川香料(株)  
日立化成(株)  
富士フイルム和光純薬(株)  
三菱ガス化学(株)  
ライオン(株)

**医薬品**  
アステラス製薬(株)  
小野薬品工業(株)  
協和発酵キリン(株)  
塩野義製薬(株)  
第一三共(株)  
大正製薬(株)

大日本住友製薬(株)  
田辺三菱製薬(株)  
中外製薬(株)  
Meiji Seika ファルマ(株)

**ゴム製品**  
(株)ブリヂストン  
横浜ゴム(株)

**食料品**  
味の素(株)  
サントリーホールディングス(株)

**石油・石炭製品**  
出光興産(株)  
JXTG エネルギー(株)

**繊維製品**  
帝人(株)

**機械**  
ダイキン工業(株)

**建設業**  
日揮(株)

**公的研究機関**  
(国研)理化学研究所

**精密機器**  
(株)島津製作所

**電気機器**  
コニカミノルタ(株)

**非鉄金属**  
住友電気工業(株)

口数、業種別に50音順・敬称略(2019年4月5日現在)  
他にも幅広い業種(電気・ガス、鉄鋼、パルプ・紙、輸送用機器等)を含む多くの企業・団体にご支援いただいております。  
詳細は下記URLをご参照ください。(434社)  
<http://www.chemistry.or.jp/societyguide/organization/corporationlist.html>

# 化学会概要

## 沿革

- 1878年（明治11年）化学会創立，翌年，東京化学会と改称
- 1898年（明治31年）工業化学会創立
- 1921年（大正10年）東京化学会が日本化学会と改称
- 1941年（昭和16年）社団法人に移行
- 1948年（昭和23年）日本化学会と工業化学会が合併
- 1978年（昭和53年）創立100周年記念
- 1991年（平成3年）化学会館竣工
- 2003年（平成15年）創立125周年記念（天皇皇后両陛下ご臨席）
- 2011年（平成23年）公益社団法人に移行
- 2018年（平成30年）創立140周年

## 会員（2019年2月末現在）

約2.7万人の会員を擁し，国内自然科学系の学会としては最大の規模を誇る。法人正会員は434法人。

会員種	
個人正会員	18,423
学生会員	5,430
中高生会員	90
教育会員	1,597
名誉会員	78
法人正会員	434
公共会員	401
合計	26,453

## 目的・事業

（目的）

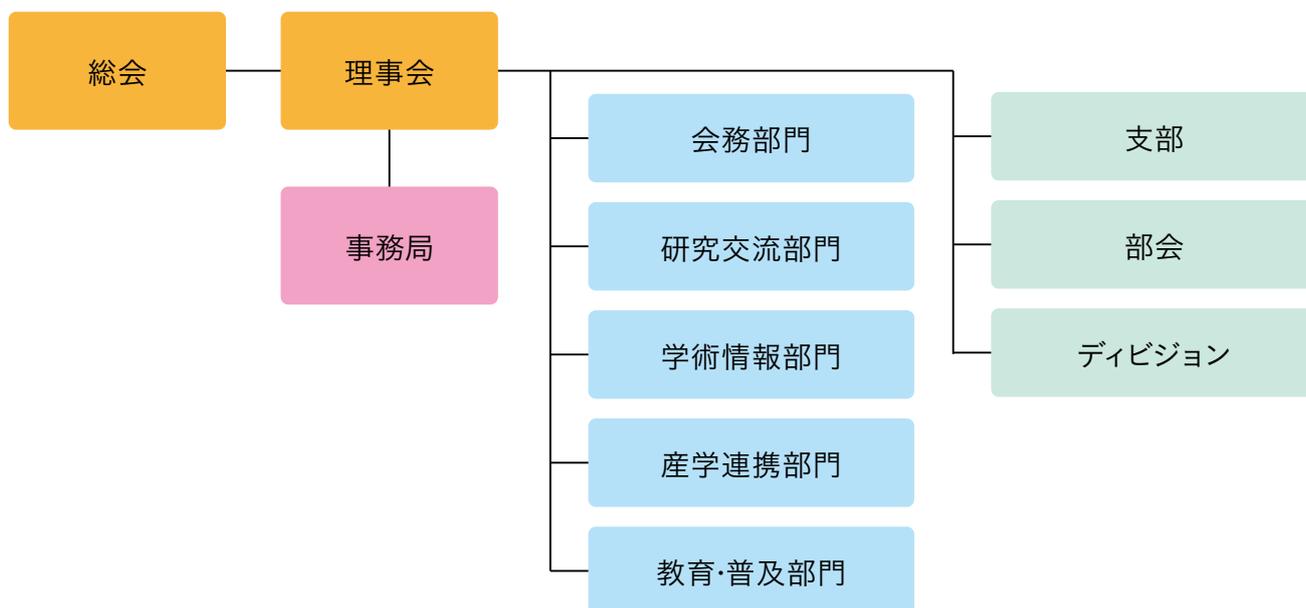
本会は，化学に関する，学術の進歩・技術の発展・産業の振興・知識の普及，並びにそれを担う人材の育成を図り，もって社会の発展に寄与することを目的とする。（定款第3条）

（事業）

本会は，前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- （1）学術集会の開催
  - （2）会誌並びに学術図書の刊行
  - （3）内外の関連学協会との連携，協力
  - （4）研究の奨励及び研究業績の表彰
  - （5）産学，産産交流並びに連携の推進など産業の振興に資する事業
  - （6）化学知識の普及に資する事業
  - （7）化学教育の振興など人材の育成に資する事業
  - （8）化学の振興に関する政策提言
  - （9）科学及び技術に関する調査，研究
  - （10）科学及び技術に関する研究の助成
  - （11）その他本会の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業は，日本全国及び海外において行うものとする。（定款第4条）

## 組織図



## 役員 (2019年5月22日現在)

会 長	川合真紀 (分子研)	理事	小柳津研一 (早大先進理工)
筆頭副会長	石谷 治 (東工大理)	理事	加藤 直 (首都大東京)
常務理事	澤本光男 (中部大総工研)	理事	工藤一秋 (東大生産技研)
副会長	加藤昌子 (北大院理)	理事	薩摩 篤 (名大院工)
副会長	酒井一成 (DIC(株))	理事	高井和彦 (岡大院自然科研)
副会長	中村 聡 (東工大生命理工)	理事	飛田博実 (東北大院理)
副会長	福田 伸 (三井化学(株))	理事	永島英夫 (九大先端研)
副会長	八島栄次 (名大院工)	理事	野崎京子 (東大院工)
理事	秋山隆彦 (学習院大理)	理事	林 高史 (阪大院工)
理事	五十嵐仁一 (JXリサーチ(株))	理事	林 俊典 (東ソー・エイアイエイ(株))
理事	石坂昌司 (広大院理)	理事	松原誠二郎 (京大院工)
理事	石原一彰 (名大院工)	理事	山内 薫 (東大院理)
理事	及川英秋 (北大院理)	監事	武馬吉則 (花王(株))
理事	岡部晃博 (三井化学(株))	監事	谷口 功 (国立高専機構)
理事	小川周一郎 (旭化成(株))	監事	原田 明 (阪大産業研)
		監事	山崎勝義 (広大院理)

計 31 名

# 会計報告 (2018年度)

## 貸借対照表 (要約版)

2019年2月28日現在

科目	(単位：千円)
<b>I 資産の部</b>	
流動資産	226,322
固定資産	1,663,646
基本財産	604,307
積立資産 (一般正味)	803,361
積立資産 (指定正味)	103,336
その他固定資産	152,642
資産合計	1,889,968
<b>II 負債の部</b>	
流動負債	289,344
固定負債	119,422
負債合計	408,766
<b>III 正味財産の部</b>	
指定正味財産	103,335
一般正味財産	1,377,867
正味財産合計	1,481,202
負債及び正味財産合計	1,889,968

## 正味財産増減計算書 (要約版)

2018年3月1日～2019年2月28日

科目	(単位：千円)
受取会費等 (会費・部会費等)	276,985
事業収益	422,618
受取補助金等・受取寄付金・雑収益	144,545
経常収益 計	844,148
事業費	825,593
管理費	53,186
経常費用 計	878,779
投資有価証券評価損益等	△ 12,999
当期経常増減額	△ 47,630
法人税等	△ 70
当期一般正味財産増減額	△ 47,700
一般正味財産期末残高	1,377,867

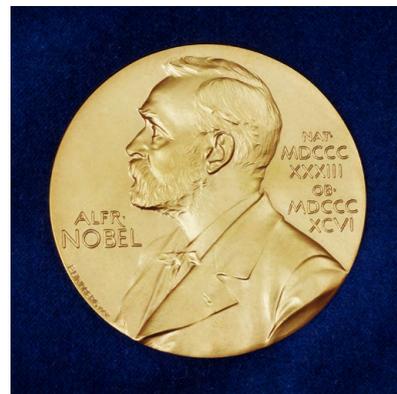
## 受取補助金内訳

交付者	(単位：千円)
日本学術振興会 (国際情報発信強化)	35,300
徳山科学技術振興財団 他	8,349
計	43,649

## 受取寄付金内訳

	(単位：千円)
化学振興事業	2,040
化学だいきクラブ事業	5,948
化学遺産事業	860
計	8,848

## ノーベル賞受賞会員



©\*The Nobel Foundation.

2015年  
受賞

生理学・医学賞

大村 智

受賞理由：線虫の寄生によって引き起こされる感染症に対する新たな治療法に関する発見

2014年  
受賞

物理学賞

天野 浩

受賞理由：高輝度青色発光ダイオードの発明

2014年  
受賞

物理学賞

赤崎 勇

受賞理由：高輝度青色発光ダイオードの発明

2010年  
受賞

化学賞

根岸英一

受賞理由：有機合成におけるパラジウム触媒クロスカップリング  
1999年 日本化学会賞受賞

2010年  
受賞

化学賞

鈴木 章

受賞理由：有機合成におけるパラジウム触媒クロスカップリング  
1989年 日本化学会賞受賞

2008年  
受賞

化学賞

下村 脩

受賞理由：緑色蛍光タンパク質の発見とその応用

2002年  
受賞

化学賞

田中耕一

受賞理由：生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発

2001年  
受賞

化学賞

野依良治（日本化学会 元会長）

受賞理由：不斉触媒による水素化反応の研究  
1985年 日本化学会賞受賞

2000年  
受賞

化学賞

白川英樹

受賞理由：導電性高分子の発見と開発

1981年  
受賞

化学賞

福井謙一（日本化学会 元会長）

受賞理由：化学反応過程の理論的研究



公益社団法人  
**日本化学会**

〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5  
TEL: 03-3292-6161 FAX: 03-3292-6318  
<http://www.chemistry.or.jp/>

デザイン: 株式会社マツダオフィス  
印刷: 株式会社三永印刷

2019.06.

